

平成25年度 第1回 太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成25年8月～12月)のポイント

海況

潮岬以東の黒潮は、8月上旬にB型、その後C型、12月にB型となる。沿岸水温は、潮岬以西が「平年並」～「高め」、熊野灘～駿河湾は「平年並」～「やや高め」、伊豆諸島北部海域は「平年並」～「低め」、鹿島灘～常磐南部海域が「平年並」～「低め」で推移する。

※ B型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯32度以北、33度以南）

C型：非大蛇行離岸流路

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、高め＝平年値+1.5℃程度

やや高め＝平年値+1.0℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

漁況(来遊量予測)

マサバ・ゴマサバ

前年並～上回る海域が多い。

マアジ

低水準の前年並。

マイワシ

西日本では低調な漁況で推移する海域が多い。

房総以北では前年を上回る。

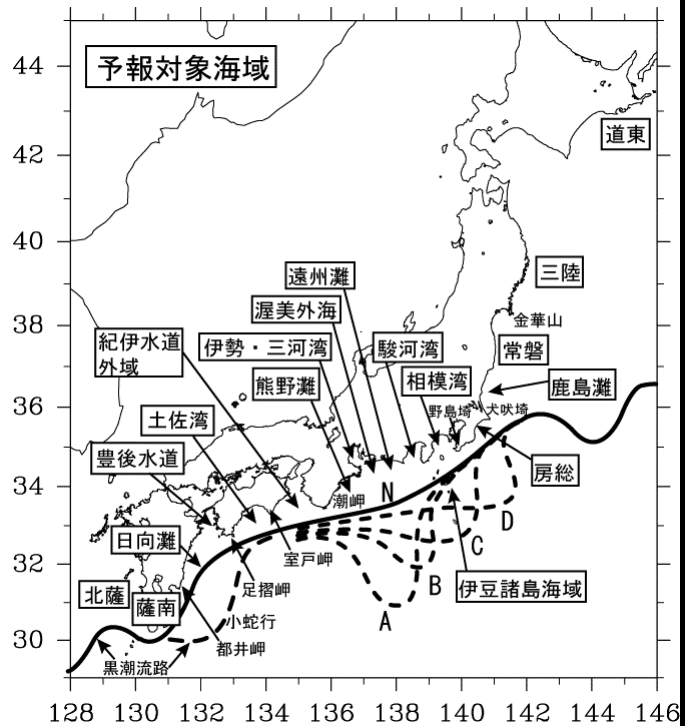
カタクチイワシ

相模湾以西で前年並か上回る。

房総海域以北で前年を下回る。

ウルメイワシ

豊漁であった前年を下回る海域が多い。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

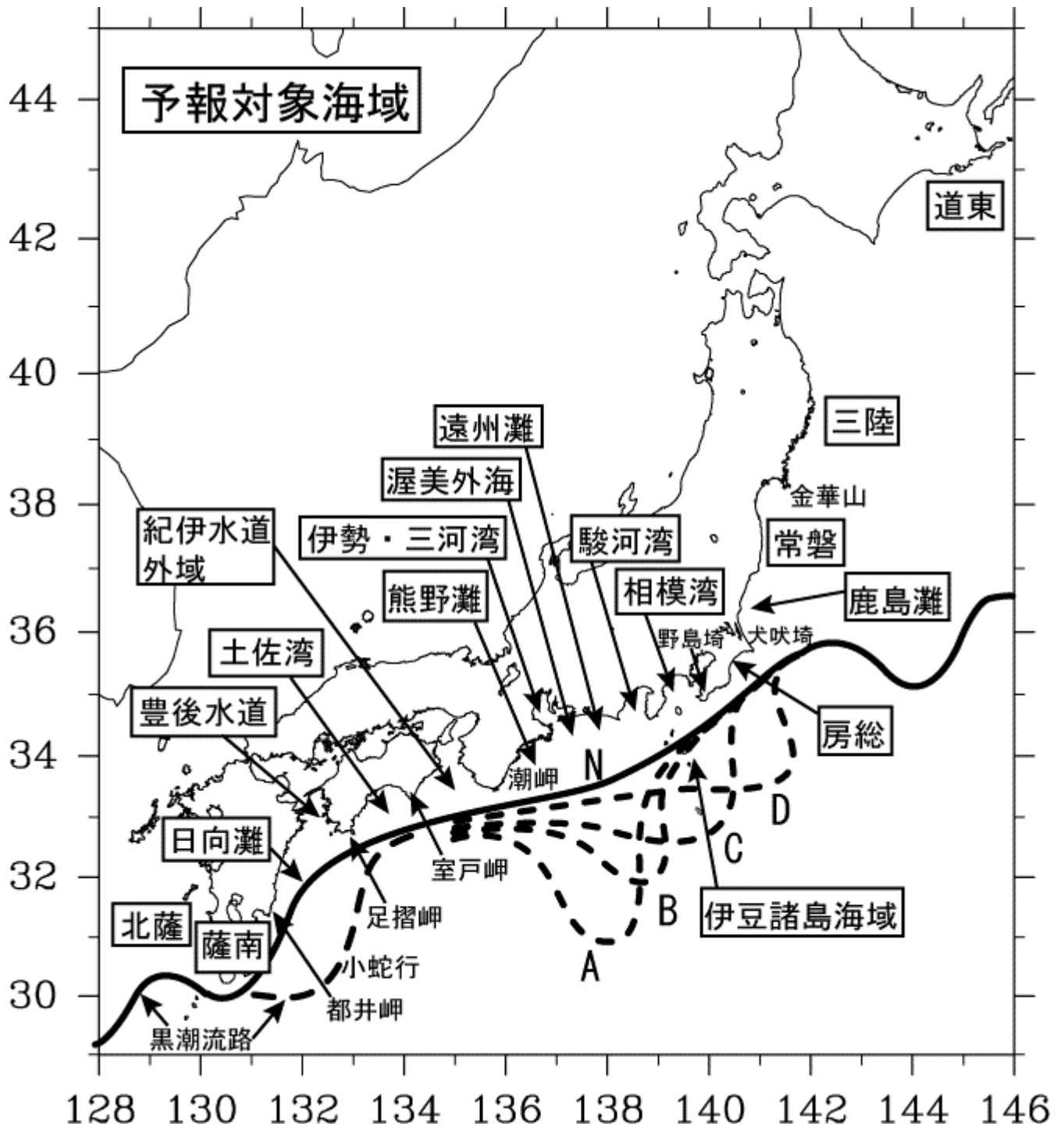
担当：市橋、川崎

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



中央ブロック海況予報

今後の見通し（2013年8月～12月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、8月までは接岸傾向となる。9月以降は小蛇行が形成され、一時的に離岸傾向となる。
- ・足摺岬～室戸岬沖では、接岸傾向であるが、10月～12月に小蛇行の東進により一時的に離岸する。
- ・潮岬沖では、離岸傾向であるが、8月と11月～12月に小蛇行の東進の前後で一時的に接岸する。

◎潮岬以東

- ・8月上旬に一時的にB型となり、その後C型となる。12月に再びB型となる。
- ・房総沖では、8月後半に接岸し、以降接岸傾向で推移する。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、黒潮流路の変動に伴い、内側域への暖水波及がある。
- ・伊豆諸島南部海域は、8月と12月には暖水域に、それ以外は冷水域に覆われる。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・沿岸の下層を中心に冷水の影響が残る。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は「平年並」～「高め」で推移する。小蛇行の東進に伴い変動する。
- ・熊野灘～駿河湾は、「平年並」～「やや高め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島北部海域～相模湾は、「平年並」～「低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、「低め」で推移する。8月と12月には「高め」となる。
- ・房総沿岸域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過（2013年4月～7月）（注：経過は図2を参照のこと）

(1) 黒潮

- ・2月以降、概ねN型で推移した。
- ・4月下旬、B型となり、5月下旬、C型になった。
- ・7月中旬には、熊野灘沖で蛇行した後、遠州灘を北上し、伊豆諸島の西側を南下する流路となった。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・4月～6月、黒潮北縁は概ね屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

◎潮岬以西

- ・2月中旬以降、都井岬沖で黒潮は「かなり離岸」で推移した。
- ・3月～4月、都井岬沖の小蛇行が東進し、足摺岬沖～潮岬沖を通過した。
- ・4月～5月中旬、都井岬沖で黒潮は接岸傾向であった。
- ・5月下旬～6月、都井岬沖に小蛇行が形成され離岸傾向となった。
- ・6月上旬～7月中旬、都井岬沖の小蛇行が東進し、足摺岬沖～潮岬沖を通過した。
- ・7月、都井岬沖で黒潮は接岸傾向で推移した。

◎潮岬以東

- ・4月上旬、熊野灘に黒潮が流入して、高水温となった。
- ・4月上旬、駿河湾から遠州灘および相模湾へ暖水が波及した。
- ・4月中旬、黒潮北上部から熊野灘～遠州灘へ暖水が波及した。
- ・5月、伊豆諸島北部海域から遠州灘へ黒潮内側反流の暖水が波及した。
- ・6月、熊野灘から遠州灘へ断続的に暖水が波及した。
- ・7月上旬、熊野灘で沿岸湧昇が発生し、その後沖合まで冷水が広がった。
- ・5月中旬まで、伊豆諸島南部海域は概ね暖水域に入っていたが、5月下旬～7月中旬、冷水域に入った。
- ・野島埼沖での黒潮は、4月に接岸傾向、5月上旬～中旬に離岸傾向、5月下旬に接岸傾向、6月には離岸傾向で推移した。7月上旬～中旬は接岸傾向であったが、7月下旬にはかなり離岸となった。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・1月～4月、黒潮からの暖水が広い範囲に波及した。
- ・5月以降、冷水の影響を大きく受けた。

現況（2013年7月26日現在）

(1) 黒潮

- ・熊野灘沖で蛇行した後、遠州灘を北上している。その後、伊豆諸島の西側を南下し、房総沖をかなり離岸して流れている。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・黒潮北縁は接岸傾向で推移している。

◎潮岬以西

- ・黒潮は、都井岬～足摺岬で「接岸」、室戸岬で「やや離岸」、潮岬で「著しく離岸」している。

◎潮岬以東

- ・小蛇行が潮岬沖を通過している。
- ・遠州灘沖に黒潮の本流の暖水がある。
- ・伊豆諸島南部海域付近に黒潮と内側冷水域の境界がある。
- ・野島埼沖で黒潮はかなり離岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・下層を中心に冷水の影響を受けている。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

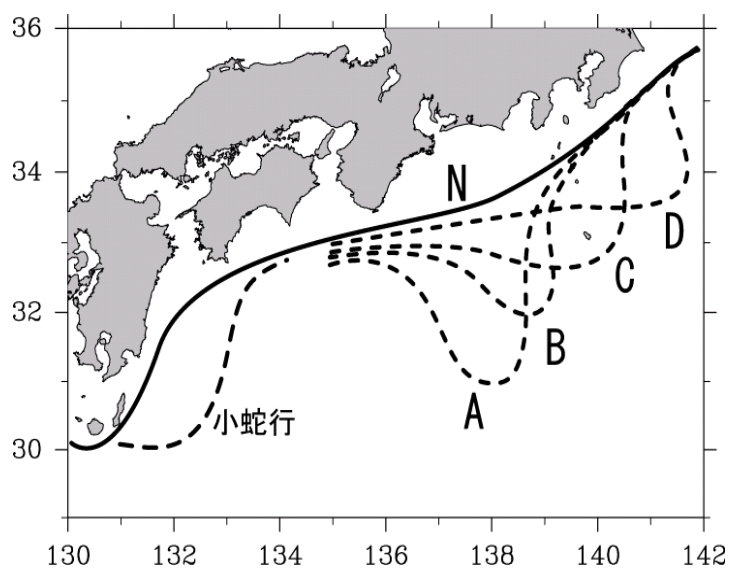


図1 黒潮流型の分類

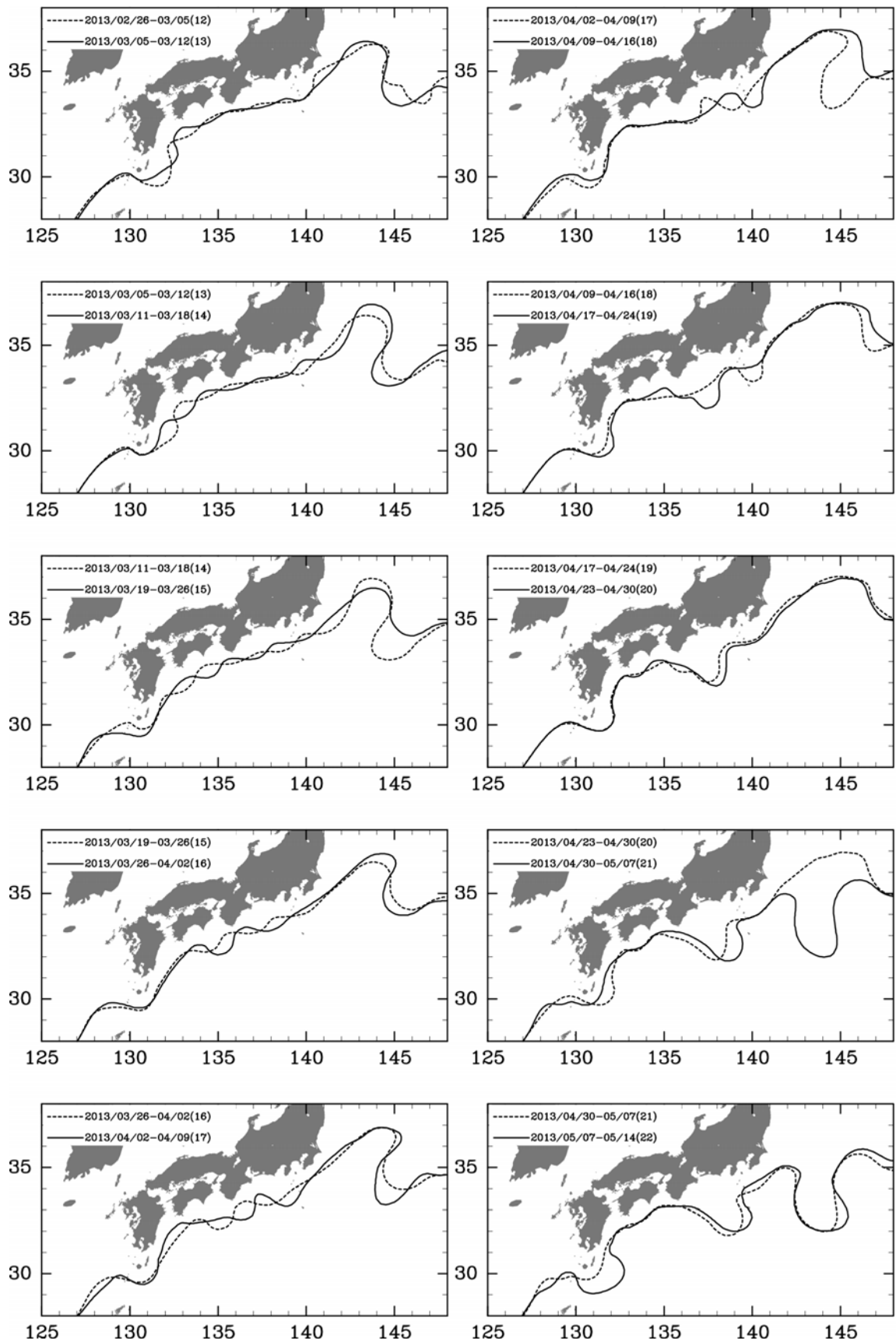


図2 黒潮流軸のパターン

(2013年3月~7月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

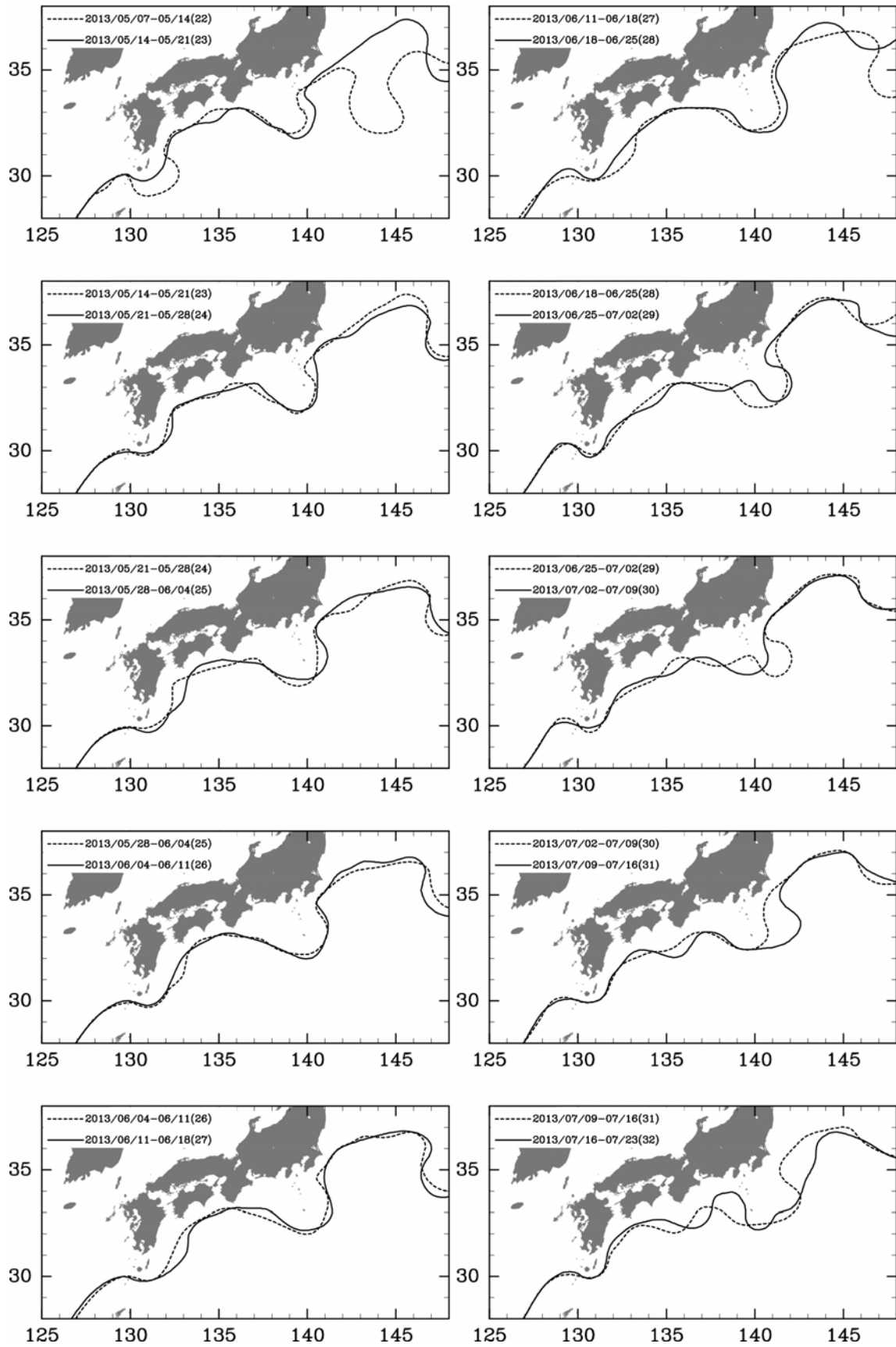


図2 (続き) 黒潮流軸のパターン

(2013年3月~7月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013年8月～12月）

対象海域：薩南～豊後水道南部～土佐湾、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい等

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、2歳魚（2011（平成23）年級群）、3歳魚（2010（平成22）年級群）、4歳（2009（平成21）年級群）以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。年初に加齢。

1. 薩南～豊後水道南部～土佐湾（まき網、定置網等）

- (1) 来遊量：マサバは低水準だが、宿毛湾～土佐湾では1歳魚主体に前年を上回る。ゴマサバ0歳魚は前年並～上回る。1歳魚は前年並～上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳以上は少ない。さば類全体としては、薩南では低調であった前年を上回る。日向灘では前年並。豊後水道南部では前年並～上回る。宿毛湾～土佐湾では前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、薩南海域では20cm～36cm（0～2歳魚）。日向灘～豊後水道南部～宿毛湾では20cm～30cm前後（0、1歳魚）主体。土佐湾では30cm～38cm（1～4歳魚）。マサバは、宿毛湾～土佐湾では27cm～30cm前後（1歳魚主体に2歳魚混じり）。

2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準だが1歳魚のまとまった来遊がみられる。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。さば類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、29cm～38cm（1～4歳魚）主体。マサバは28cm～36cm（1～4歳魚）。

3. 熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ0歳魚は前年を上回る。1歳魚は前年並。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。さば類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：マサバは混獲程度。ゴマサバが主な漁獲対象となり、20cm～30cm（0歳魚）主体に、30cm以上（1歳以上）が混じる。

4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。さば類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となり、銭洲にも漁場が形成される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、24cm～31cm（1、2歳魚）主体。36cm以上（4歳魚）も混じる。

5. 犬吠～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバ0歳魚は前年を上回る。1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。マサバとしては前年並～上回る。ゴマサバは前年並。さば類全体としては前年並～上回る。
- (2) 漁期・漁場：定置網は期を通じて漁獲される。まき網漁場は、8月～11月は三陸海域、10月～12月は主に常磐～犬吠海域に形成される。道東海域では8月～10月に形成される。
- (3) 魚体：マサバは27cm～37cm前後（1～4歳魚）。期後半に25cm以下の0歳魚も漁獲される。ゴマサバは25cm～36cm前後（1～4歳魚）。期後半に25cm以下の0歳魚も漁獲される。

漁況の経過（2013年1月～7月）および今後の見通しについての説明

1. 資源状態

1) マサバ

資源量は1990～2000年代に低い水準にあったが、近年の加入量水準の高い年級群の発生により資源量が増加している。

2008年級群（5歳）以上は、残存資源量は少ない。

2009年級群（4歳魚）は、7月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が24億尾であり、加入量水準は近年では高く、これまでの各地漁業で漁獲されている。残存資源量は近年の4歳魚としては多い。

2010年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が16億尾と近年では比較的高い水準であり、これまでの各地漁業で漁獲されている。残存資源量は近年の3歳魚としては比較的多い。

2011年級群（2歳魚）は、推定加入尾数が7億尾と近年の平均を下回る水準である。

2012年級群（1歳魚）は、推定加入尾数が18億尾であり、最近年のため推定値の不確実性は高いが、近年では比較的高い水準と推定された。これまでの各地漁業の漁獲状況では、2011年級群の同期を上回っている海域が多い。調査船調査では、2013年6月の三陸～道東沖の流し網調査（釧路水試）や5月～7月の北西太平洋北上期中層トロール調査（北上期浮魚類資源調査・移行域幼稚魚調査（東北水研・中央水研・北水研））における1歳魚としての出現は前年を上回って多かった。

2013年級群（0歳魚）は、2001年以降実施している北上期中層トロール調査による推定現存量が2004年や2009年を大きく上回り、過去最高であった。同調査における出現率（漁獲のあった調査点の割合）は41%であり、最も高かった2009年（42%）と同程度であった。同調査漁獲物による7月時点での推定平均体長は加入豊度と相関が高いが、2013年は16.4cmであり、過去の同調査で上位5番目であった。また、近年における稚仔魚期の平均成長率は加入豊度と相関が高いことがわかっているが、2013年の成長率は、2002年以降において2009年、2004年に次いで上位3番目であった。現時点での0歳魚の加入量水準の見積もりは不確実であるが、加入尾数は卓越して高い水準と見込まれる。

2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半以降高い水準にある。0歳時に黒潮-親潮移行域を回遊して加入する群が資源の主な部分を占めるようになっている。

2009年級群（4歳魚）は、7月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が22億尾であり、加入量水準は近年では高く、これまでの各地漁業で漁獲されている。残存資源量は近年の4歳魚としては多い。

2010年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が14億尾と近年の平均を上回る水準であり、これまでの各地漁業で2009年級群とともに漁獲対象となっている。

2011年級群（2歳魚）は、推定加入尾数が12億尾と近年の平均を上回る水準である。

2012年級群（1歳魚）は、推定加入尾数が14億尾であり、最近年のため推定値の不確実性は高いが、近年の平均を上回る水準と推定された。これまでの各地漁業で漁獲対象となっている。静岡県棒受網CPUEに基づく0歳魚資源密度指数（静岡水技研）は5,950であり、2009年級群（16,782）を下回ったが、2010年級群（3,696）、2011年級群（2,893）を上回った。調査船調査では、6月の三陸～道東沖の流し網調査や5月～7月の北上期中層トロール調査における1歳魚としての出現は前年を上回っている。

2013年級群（0歳魚）は、定置網などの各地漁業で漁獲され始めている。調査船調査では、2001年以降実施している北上期中層トロール調査による推定現存量は最も多かった2009年を大きく上回った。同調査

における出現率は41%であり、2004年(53%)を下回ったが2009年(42%)と同程度で高かった。同調査漁獲物による7月時点での推定平均体長は加入量と相関が高いが、2013年は17.3cmであり、過去の同調査で上位6番目であった。現時点での0歳魚の加入量水準の見積もりは不確実であるが、加入量は近年では卓越して高い水準と見込まれる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述の通り、0歳魚(2013年級群)は、これまで得られている情報から加入量水準が近年では高いと考えられる。1歳魚(2012年級群)は、加入量水準が近年では比較的高く、来遊量は前年を上回る。2歳魚(2011年級群)は、加入量水準が近年の平均を下回ると推定され、来遊量は前年を下回る。3歳魚(2010年級群)は、加入量水準が近年では比較的高く、来遊量は多かった前年を下回るが主な漁獲対象となる。4歳魚(2009年級群)は、加入量水準が近年では高く、来遊量は前年を上回る。

以上のことから本予測期間は1、3、4歳魚(2012、2010、2009年級群)が主体で、2歳魚(2011年級群)も漁獲される。期後半には0歳魚(2013年級群)も漁獲される。全体の来遊量は前年並〜上回ると考えられる。

(2) 漁期・漁場、魚体

1月〜6月の漁況は、常磐〜犬吠海域のまき網では3、4歳魚主体に2、1歳魚も漁獲され、前年を下回り低調であった。伊豆諸島周辺海域のたもすくい・棒受網では3、4歳魚主体に前年並(CPUE)であった。

1月〜6月の漁獲量は、常磐〜犬吠海域のまき網は34.3千トンと、前年同期(48.8千トン)を下回った。なお、常磐海域の福島県沖合域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。伊豆諸島周辺海域のたもすくい・棒受網は2.1千トンであり、着漁隻数の減少もあって前年同期(2.8千トン)を下回った。伊豆半島〜駿河湾〜熊野灘のまき網・定置網は9.0千トンと前年同期(13.0千トン)を下回った。紀伊水道外域〜薩南の全漁業では3.4千トンと前年同期(2.3千トン)を上回った。

魚体は、常磐〜犬吠海域のまき網では、31cm〜36cmの3、4歳魚主体に2歳魚が漁獲され、22〜26cmの1歳魚も混じた。産卵場である伊豆諸島周辺海域では、33cm〜38cm前後の2〜4歳魚が漁獲された。駿河湾〜熊野灘のまき網では、伊豆諸島周辺海域とほぼ同様の組成に加え、30cm以下の0、1歳魚も漁獲された。

今期は、犬吠以北海域のまき網、定置網での漁獲が中心となる。5月〜6月の常磐〜三陸〜道東海域の調査船調査では沖合を北上する魚群(1〜4歳魚)が確認されている。魚群の移動は例年と同様の経過をたどると考えられ、1〜4歳魚対象に、漁場は8月〜11月は三陸海域に、10月〜12月は主に常磐〜犬吠海域に形成される。道東海域でも8月〜10月にまき網漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域、熊野灘、紀伊水道外域、および土佐湾〜豊後水道南部〜薩南海域での来遊量は低水準であり、ゴマサバに混獲される程度であるが、一時的にまとまった漁獲がみられる。

年齢別体長は、これまでの体長組成の推移や年齢査定の結果から概ね次の通りである。1歳魚:25cm〜32cm、2歳魚:29cm〜34cm、3歳魚:32cm〜38cm、4歳以上:35cm以上。期後半に出現する0歳魚は例年の傾向から19cm〜25cmと予測される。(各年級群の体長の範囲は広く重なり合っている)

2) ゴマサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述の通り、0歳魚(2013年級群)は、これまで得られている情報から加入量水準が近年では高いと考えられ、来遊量は前年を上回る。1歳魚(2012年級群)は、加入量水準が近年の平均を上回ると推定され、来遊量は前年並〜上回る。2歳魚(2011年級群)は、加入量水準が近年の平均を上回る

と推定されるが、来遊量は前年を下回る海域が多い。3歳魚（2010年級群）は、加入量水準が近年の平均を上回り、来遊量は多かった前年を下回るが、主な漁獲対象となる。4歳魚（2009年級群）は、加入量水準が近年では高く、来遊量は前年を上回る。

(2) 漁期・漁場、魚体

1月～6月の漁況は、薩南海域では3、2歳魚主体に前年をやや下回った。日向灘では3歳魚主体に4歳魚も漁獲され、前年をやや下回り、平年を上回った。豊後水道南部では3月までは3、4歳魚、4月以降は0、1歳魚が主に漁獲され、前年を下回った。宿毛湾～土佐湾では1～4歳魚が漁獲され、前年をやや下回った。紀伊水道外域では1～4歳魚が漁獲され、前年を下回った。熊野灘は4歳魚主体に2、3歳魚も漁獲され、前年並であった。伊豆諸島周辺海域では三宅島周辺と銭洲が漁場となり1、2歳魚主体で3歳魚も漁獲され、前年を下回った。犬吠～常磐海域のまき網では1～3歳魚がマサバに混獲され、前年並であった。

1～6月の漁獲量（全漁業）は、薩南海域～紀伊水道外域は25.5千トン（前年同期実績31.6千トン）、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は42.7千トン（同46.3千トン）、犬吠以北海域は0.8千トン（同0.7千トン）であった（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）。

今期における各地の漁期・漁場と魚体は、薩南海域では0～2歳魚、日向灘～豊後水道南部～宿毛湾では0、1歳魚主体、土佐湾～紀伊水道外域では1～4歳魚、熊野灘では0歳魚主体に1歳以上混じりでそれぞれ期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では、近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に1、2歳魚主体で期を通じて漁場が形成される。犬吠以北海域では1～4歳魚がマサバに混獲され、期後半には0歳魚も漁獲される。

年齢別体長は、これまでの体長組成の推移や年齢査定の結果から概ね次の通りである。0歳魚：30 cm以下で20 cm～25 cm主体、1歳魚：25 cm～30 cm前後、2歳魚：30 cm～35 cm、3歳以上：33 cm以上。（各年級群の体長の範囲は広く重なり合っている）

マアジ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し(2013年8月～12月)

対象海域:北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業:まき網、定置網

対象魚群:0歳魚(2013(平成25)年級群)、1歳魚(2012(平成24)年級群)、2歳(2011(平成23)年級群)以上。
年初に加齢。魚体は尾叉長。

1.北薩～土佐湾(まき網、定置網)

(1) 来遊量:北薩～薩南海域は前年を下回る。日向灘では前年並。豊後水道西部は前年並。豊後水道東部は前年を上回る。土佐湾では前年並。

(2) 漁期:期を通じて漁獲される。

(3)魚体:0歳魚は19cm以下。1歳魚は19cm～25cm。2歳以上は25cm以上。

2.紀伊水道外域～熊野灘(まき網、定置網)

(1) 来遊量:紀伊水道外域西部では0歳魚主体に前年並～下回る。東部は1歳以上が主体となり前年並。熊野灘では1歳以上に、0歳魚が混じり前年並～上回る。

(2) 漁期:期を通じて漁獲される。

(3)魚体:0歳魚は19cm以下。1歳魚は19cm～25cm。2歳以上は25cm以上。

3.相模湾(定置網)

(1) 来遊量:0歳魚主体に1歳以上が混じり、低水準ながら前年を上回る。

(2) 漁期:期を通じて漁獲される。

(3)魚体:0歳魚は19cm以下。1歳魚は19cm～25cm。2歳以上は25cm以上。

漁況の経過(2013年1月～7月)および見通し(2013年8月～12月)についての説明

1.資源状態:

資源量は1986年以降増加し、1990年代半ばは15万トンから16万トンと高位水準で推移したが1997年からは減少に転じ、2001年に増加したものの2005年以降は減少が続いている。現在の資源量は5～6万トン程度であり、水準としては低位、動向は減少傾向にある。

2011年級群(2歳)以上は、今期において紀伊水道外域東部で漁獲対象となる可能性があるが、残存資源量は少ないと考えられる。

2012年級群(1歳魚)は、2013年1月～6月の1歳魚漁獲尾数が低調であった前年1歳魚(2011年級群)の漁獲尾数をやや下回っていること、加入量の指標となる(1)4月～6月宮崎県南部定置網アジ仔CPUE、(2)4月～翌年3月宇和島港ゼンゴ漁獲量、(3)4月～翌年3月宿毛湾ゼンゴ資源量指数、(4)5月～6月串本棒受網当歳魚漁獲量、(5)4月～翌年3月伊勢湾まめ板漁業当歳魚漁獲量、(6)4月～翌年3月伊豆東岸定置網当歳魚漁獲量、の6つの指標から計算される加入量指数は2011年を下回ったことから、年級豊度は高くないと考えられる。

2013年級群(0歳魚)は、今期の漁獲の中心となる。これまでの漁況は低調ながら低水準であった前年を上っている。上述の加入量指数を6月までの数値で計算したところ、2013年は2012年を上回るもの的高くはなく、2010年並となった。このことから、現段階での判断は難しいが、2013年級群の加入量水準は前年2012年級群を上回るもの的高くはないと考えられる。

2.来遊量、漁期・漁場:

来遊量については、海域ごとに、前期における漁獲状況等に基づき予測した。なお、マアジは予測期間中を通じて漁獲対象になる。

(1)北薩～土佐湾

北薩～薩南海域での主要港における1月～6月のまき網漁獲量は723トン(前年比56%)と前年を下回った。今期の主体となる0歳魚は、6月までにややまとまった漁獲がみられたものの低調であり、来遊量は前年並みと考えられる。1歳魚および期後半の2歳以上はこれまで低調に推移していることから、来遊量は前年を下回ると考えられる。全体としては前年を下回ると考えられる。

日向灘の1月～6月の主要港におけるまき網漁獲量は336トン(前年比46%)と前年を下回った。主体となる0歳魚の今期の来遊量は、5月～6月の日向灘南部定置網CPUE、宇和海中南部まき網0歳魚漁獲量から算出される加入量指標値から判断して、前年並と予測される。

豊後水道西部の1月～6月の主要港まき網漁獲量は239トン(前年比102%)と前年並であった。主体となる0歳魚の大分県南部の定置網での漁獲量が前年並であったことから、来遊量は前年並みと考えられる。

豊後水道東部の1月～6月の主要港まき網漁獲量は469トン(前年比78%)と前年を下回った。しかし主体となる0歳魚の5月～6月における漁獲量が前年同期を上回っていることから、今期の来遊量は前年を上回ると見込まれる。

宿毛湾、土佐湾の1月～6月におけるまき網・定置網による漁獲量は200トン(前年比41%)と前年を下回った。4月～6月の漁況および、聞き取り調査による0歳魚の加入状況から、来遊量は前年並みと考えられる。

(2)紀伊水道外域～熊野灘

紀伊水道外域西部では、1月～6月の標本漁協漁獲量が0歳魚主体に前年を上回ったものの(76トン:前年比112%)、5月以降の漁況が低調であったことから、今期の来遊量は前年並か下回ると考えられる。

紀伊水道外域東部では、1月～6月の漁況は前年並に極めて低調であったことから(まき網・棒受網・定置網297トン:前年比90%)、今期の対象となる1～3歳魚の来遊量は前年並の低水準と予測される。

熊野灘では、1歳以上が主体となり、これに0歳魚が加わる。1月～6月のまき網・定置網による漁獲量は347トン(前年比208%)と前年を上回った。0歳魚については定置網への入網が前年同期を下回ったが、1歳以上は中型まき網での漁獲が前年を上回り、6月には25cm以上(2歳以上)の大型魚も漁獲された。0歳魚の来遊量は、定置網への漁況が前年同期を下回ったことから、近年の平均を下回ると考えられるが、1歳以上は低水準ながら前年を上回ると考えられ、全体としては前年並～上回ると考えられる。

(3)相模湾

1月～6月の伊豆東岸定置網および相模湾西湘地区定置網の漁況はきわめて低調であった前年同期を上回ったものの(伊豆東岸定置網756トン:前年比147%、西湘地区定置網191トン:前年比193%)、低調に推移した。漁獲の主体は1歳魚で、伊豆東岸定置網では5月に22cm以上の大型個体(2歳以上)も漁獲された。0歳魚漁獲量は低水準ながら前年を上回った。今期は0歳魚が主体となり、これに1歳以上が混じると考えられ、来遊量は低水準ながらきわめて少なかった前年を上回ると考えられる。

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013年8月～12月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、2歳魚（2011（平成23）年級群）、3歳魚（2010（平成22）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：北薩、薩南では前年を上回る。日向灘、宿毛湾、土佐湾では低調であった前年並か上回る。豊後水道南部、紀伊水道外域、熊野灘では前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：12cm～18cmの0歳魚が主体となる。熊野灘では18cm～21cmの1歳魚が混じる。

2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

- (1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では前年を上回る。駿河湾および相模湾南部では低調であった前年を上回る。相模湾北部では低調であった前年並。
- (2) 漁期・漁場：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：10cm～16cmの0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾南部（静岡県域）では16cm～20cmの1歳魚も主体となる。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：房総～常磐南部では8月と11月以降に、仙台湾～三陸海域では8月～11月に、道東海域では8月～10月にまき網漁場が形成される。仙台湾～三陸海域の定置網については漁獲が継続する。
- (3) 魚体：1～3歳魚主体。1歳魚は15cm～20cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳魚は20cm～23cm。

漁況の経過（2013年4月～6月）および見通し（2013年8月～12月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2010年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から近年では極めて高い水準であることが示唆された。漁業においても、2010年秋以降の三陸・道東海域に出現した後、2011年漁期前半には房総海域におけるまき網で多獲され、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は5.36と最近10年間で最大となり、漁獲の主体として2011年漁期の好漁を支えた。2012年漁期の愛知県以東海域における2010年級群（2歳魚）の漁獲尾数（5.1億尾）は同漁期同海域における全漁獲尾数（12億尾）の4割を占め、2013年漁期前半における房総周辺のまき網漁獲物においても全体の1割を占めている。夏秋季の道東海域におけるまき網においても、2011年（約2千トン）および2012年（約6千トン）の漁獲の主体となり、さらに本年6月に道東海域で実施された調査船調査における同年級群（3歳魚）の漁獲尾数ならびにCPUEは前年を大きく上回った。以上のように2010年級群は近年では非常に高水準の年級群であり、今期も3歳魚として漁獲対象になると考えられる。

2011年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの近年では比較的高水準の年級群であることが示唆された。2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾以西の海域における0歳魚としての漁獲は前年を大きく上回り、また10月以降の八戸の2そうまきで0歳魚がまとめて漁獲されるなど、太平洋沿岸域の広い範囲で加入・漁獲がみられ、2012年漁期前半には熊野灘でも1歳魚として漁獲の主体となった。未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は0.65と2010年級群の1割強に留まったが、その後2010年級群2歳魚とともに2012年漁期の常磐・房総海域におけるまき網漁獲物の主体となった。前期においても、熊野灘沿岸や駿河湾周辺海域でのまき網に出現し、房総周辺のまき網では漁獲尾数の3割を占め、さらに三陸南部のまき網と定置網では漁獲の主体となるなど、今期も主たる漁獲対象になると考えられる。

2012年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの2011年級群を上回る水準の年級群であることが示唆された。漁業では、相模湾以西の沿岸各地で0歳魚の漁獲（マシラスを含む）が前年を下回ったものの、2012年11月下旬以降の常磐・房総海域における0歳魚の漁獲は前年を上回り、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は2.22と2010年級群に次ぐ2番目の高さを示した。前期においても、熊野灘から房総周辺にかけての多くの海域で漁獲の主体となっており、今後も2011年級群とともに主たる漁獲対象になると考えられる。

2013年級群は、産卵量段階では（前年10月～6月、I～IV区）244兆粒と前年（192兆粒）ならびに前々年（120兆粒）を上回った。2013年6月の移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数は139.1で、2010年級群の391.4には至らないものの2012年級群の123.2を上回り、1996年の調査開始以降3番目に高い値を示した。一方、北西太平洋サンマ資源調査（東北水研）による移行域～親潮域における2013年級群（0歳魚）の推定分布量は7.7億尾で、2009年以前の結果を上回るものの2010年～2012年の分布量を下回る結果となった。漁業においては、前期のマシラスは土佐湾、渥美外海および常磐海域では前年を上回る漁獲があったものの他の海域では前年を下回り、また未成魚は北薩海域および薩南海域で前年を大きく上回る好漁がみられたものの、それ以外の海域では前年を下回る低調な漁況で推移した。今後、11月以降のまき網漁獲物への出現状況、秋季北西太平洋浮魚資源調査（中央水研）、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）等の情報を加えながら、その豊度について判断することとなる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

来遊量：今期の主たる漁獲対象は0歳魚で、熊野灘ではこれに1歳魚が加わる。北薩海域および薩南海域では、前期は0歳魚を主体に前年を大きく上回る漁獲がみられたが、豊後水道南部、宿毛湾、紀伊水道外域（棒受網）ではやはり0歳魚主体ながらも前年を大きく下回る漁獲に留まり、日向灘では0歳魚ではなく産卵成魚主体の漁況で経過した。熊野灘沿岸では1歳魚が前期の漁獲の主体であるが、その漁獲量は前年を下回った。今期の来遊量については、前期0歳魚の漁獲が好調であった北薩海域および薩南海域では前年を上回ると予測される。日向灘については前期の漁獲は低調であったが加入量指標値の状況から、また宿毛湾、土佐湾では近年の漁況経過も考慮して低調であった前年並か上回ると予測される。豊後水道南部、紀伊水道外域、熊野灘については前期の0歳魚の不漁を受け今期も前年を下回ると予測される。

漁期：期を通じて漁獲される。

魚体：体長12cm～18cmの0歳魚が漁獲の主体となり、熊野灘では体長18cm～21cmの1歳魚が混じる。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

来遊量：今期の伊勢・三河湾、渥美外海で漁獲の主体となるのは0歳魚である。本海域で漁獲される0歳魚は、春季にシラス～未成魚として沿岸部へ来遊し成長したものが多くを占めると考えられるが、伊勢・三河湾周辺海域における今春のマシラス漁獲量は前年を上回り、これに伴い今期の0歳魚来遊量も前年を上回ると予測される。今期の駿河湾、相模湾南部（静岡県域）で漁獲の主体となるのは0歳魚と1歳魚である。0歳魚については4月以降駿河湾奥部の定置網にて継続的に漁獲されており、これが今後成長して漁獲対象となる可能性があり、また1歳魚として来遊する2012年級群は比較的高い豊度と考えられていることから、駿河湾および相模湾南部（静岡県域）における来遊量は低調であった前年を上回ると予測される。今期の相模湾北部（神奈川県域）で漁獲の主体となるのは0歳魚である。夏季以降の定置網による0歳魚漁獲量は春季のマシラス漁獲量との相関が見られるが、今春のマシラス漁獲量は前年を大きく下回った。このことから、来遊量は低調であった前年並と予測される。

漁期・漁場：期を通じて漁獲される。

魚体：10cm～16cmの0歳魚が漁獲の主体となる。駿河湾および相模湾南部（静岡県域）では加えて16cm～20cmの1歳魚も主体となる。

(3)房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

来遊量：今期の主たる漁獲対象は1～3歳魚で、漁期終盤の11月以降には0歳魚が混じる。1歳魚は、前期における房総周辺のまき網漁獲物の5割を占め、漁獲量も前年を上回っており、今期も前年を上回る来遊があると考えられる。2歳魚は、前期の漁獲量が前年と同程度であることから、今期も前年と同程度の来遊があるものと考えられる。3歳魚は、近年では非常に高い水準の卓越年級群であり、前期においても、房総海域～常磐南部海域では全漁獲尾数の1割に留まったものの、仙台湾～三陸南部海域では2歳魚とともに漁獲の主体となり、さらに6月下旬に道東海域で実施された調査船調査（釧路水試）では漁獲の主体を占め、前年を大きく上回る漁獲となった。以上を総合すると、前年を上回ると予測される。

漁期・漁場：まき網漁場は、房総～常磐南部では8月にかけて、仙台湾～三陸海域では11月にかけて、道東海域では8月～10月にそれぞれ断続的に形成される。11月以降には再び房総～常磐南部で漁場が形成される。なお常磐北部海域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。仙台湾～三陸の定置網においても漁獲が継続する。

魚体：1～3歳魚が漁獲され、1歳魚については15cm～20cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳魚は20cm～23cmとなる。漁期終盤の11月以降には0歳魚が12cm～13cmで混じる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013年8月～12月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、および2歳魚（2011（平成23）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～土佐湾では予測が困難。伊勢湾および渥美外海では前年を下回る。遠州灘～駿河湾では前年を下回る。相模湾では予測が困難。鹿島灘～常磐南部では前年並～下回る。

(2) 漁期：全期間。

2. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南では前年を上回る。日向灘では前年並。豊後水道南部西側では前年並。豊後水道南部東側では前年を上回る。土佐湾～熊野灘ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10cm～13cmの1歳魚および11cm以下の0歳魚。

3. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾～渥美外海では前年を上回る。駿河湾ではほとんど漁獲がない。相模湾では極めて低調だった前年並～上回る。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10cm～13cmの1歳魚および11cm以下の0歳魚。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：1 そうまきは12月以降で常磐～犬吠埼周辺。道東のまき網は9月～10月。三陸の定置網、常磐の小あぐり・房総沿岸の2 そうまきは全期間。

(3) 魚体：0歳魚は11cmまで、1歳魚は9月～10月で12cm前後、11月～12月で12cm～14cm。

漁況の経過（2013年4月～6月）および見通し（2013年8月～12月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998年から2010年まで70万トン～150万トンで推移し、2012年の資源量は56万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2011年級群（2歳魚）は、2012年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年秋季浮魚資源調査（中央水研、9月～10月）において、10cm以上のカタクチイワシの推定分布量として見ると低水準であった。9月～10月の道東海域での漁獲（1歳魚主体）は2012年で2千トン台であり、2009年、2010年の1万トン～2万トンを下回り、2011年の3千トン台より少なく、不漁であったが、漁場は4ヶ年ともごく沿岸域に限られた。2012年11月～2013年6月までの常磐房総海域での12cm以上の魚体（2歳魚主体）の漁獲量は36千トンで、前年（21千トン）より多く、前々年（39千トン）と同程度であった。こ

れまでの動向から、2011年級群は最近10年の中で見れば低水準であり、今後もほとんど漁獲対象とならないと考えられる。

2012年級群（1歳魚）は、2012年の秋季浮魚資源調査（中央水研、9月～10月）において10cm未満の魚体で漁獲されており、漁獲尾数は2005年以降で最低であった。一方、秋季の道東海域の流し網調査（釧路水試）では0歳魚は見られず、房総海域の秋季の2そうまきは前年を上回ったが高水準ではなかった。前年11月～本年6月までの常磐房総海域での12cm未満（1歳魚主体）の漁獲量は12千トンで、前年（47千トン）、前々年（24千トン）を下回った。以上の状況から、2012年級群は最近10年の中で見れば低水準と考えられる。

2013年級群（0歳魚）は、春季のシラス漁況は総じて前年を上回った。2013年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）における10cm未満の推定現存尾数は2001年以降で最低であった。以上のように2013年級群の資源水準は低い可能性があるものの、現段階での判断は困難であり、今後の出現状況次第である。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

土佐湾以西では、本年4月～6月のシラス漁獲量は、前年を上回った。今期は現段階で根拠となる情報が得られておらず来遊量の予測は困難である。伊勢湾および渥美外海では、ともにカタクチイワシの産卵水準が、過去10年平均を下回っていることから、来遊量は好漁であった前年を下回ると予測される。遠州灘～駿河湾では、過去の漁獲動向から春好調のパターンと考えられるが、今期の来遊量は好調であった前年を下回ると予測される。相模湾では、今後の湾周辺での産卵量によるところが大きいので、来遊量の予測は困難である。鹿島灘～常磐南部でのシラス漁況は黒潮流路の型と関係が強く、A型で不漁、D型で好漁、その他で中漁となる傾向があり、今期はC型基調で推移することが予測されることから、シラスは中漁水準と考えられるが、冷水の影響が残る可能性があることから、前年並～下回ると予測される。

(2) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、北薩海域のまき網、棒受網が好調なことから、来遊量は前年を上回ると予測される。日向灘における今期の主たる漁獲対象は、夏季に盛漁となる沿岸発生群である。日向灘では1月～5月の沿岸小型まき網および2012年のシラスが過去5年平均並であったことから、来遊量は低調であった前年並と考えられる。豊後水道南部西側では、0歳魚（2013年級群）の来遊水準は、前年並かやや増加傾向、1歳魚（2012年級群）は1986年から2012年の平均並か、それを下回ると予想されることから、来遊量は前年並と予測される。豊後水道南部の東側では、4月～6月にカタクチイワシのまとまった水揚げが認められたこと、およびカタクチシラスの水揚げが前年を上回って推移していることから、来遊量は前年を上回ると予測される。土佐湾～熊野灘では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(3) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

伊勢・三河湾～渥美外海では、夏秋季の漁獲量は、春季のシラス漁獲量が多いほど多くなる傾向があり、今春のシラス漁獲量が過去10年平均を上回ったことから、来遊量は前年を上回ると予測される。駿河湾では過去5年間で8月以降の漁獲がほとんどない。相模湾では、ここ数年は8月中旬以降、ほとんど漁獲されない状況が継続しているが、前年が極めて低調であったため、来遊量は前年並か上回ると予測される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

2012年11月～2013年6月の常磐・房総海域における漁獲量（千葉県、茨城県、福島県の計）は48千トンで、前年（67千トン）を下回った。同海域の漁獲物は12cm以上が主体で、2歳魚と想定される12cm以上の大型魚が漁獲物重量の75%を占め、1歳魚（2012年級群、10cm～12cm）は少なかった。このように、今後の主たる漁獲対象となる1歳魚（2012年級群）が少ないことから、来遊量は前年を下回ると考えられる。

道東海域では、近年はまき網による漁獲量が低い水準にあること、および本年6月下旬の釧路水試による調査船調査の結果によると、例年漁獲の主体となる小型（11cm未満）の個体が少なかった。このため、今期の1歳魚（2012年級群）の来遊量は前年を下回ると予測される。

常磐・房総海域では例年、南下期の12月以降から盛漁となる。資源水準が高ければ、1月～6月に常磐・房総海域で漁獲された9cm～12cmの小型群が秋季に12cm前後となって道東海域に来遊し、冬季に12cm～14cmの大型群（12月で1歳魚、年明け2歳魚）となって再来遊するが、1歳魚の来遊量は前年を下回ると考えられる。九十九里海域を中心に夏秋季に漁獲対象となる0歳魚（2013年級群）、および南下回遊による0歳魚の12月以降の漁場への加入については判断材料が乏しい。漁場および魚体については近年の傾向および最近の漁獲物の体長から判断した。なお、常磐海域の福島県沖合域では、現在まき網の操業自粛措置がとられている。

三陸沿岸の定置網には常磐・房総の魚群の一部が来遊すると考えられ、今漁期の主体となる1歳魚（2012年級群）の来遊量は、まき網の漁獲状況等から判断して前年同期を下回ると考えられる。

ウルメイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し(2013年8月～12月)

対象海域:北薩～熊野灘

対象漁業:まき網、定置網、棒受網、多鈎釣

対象魚群:0歳魚(2012年秋～2013年生まれ)及び1歳魚(2011年秋～2012年夏生まれ)。

魚体は被鱗体長。

(1) 来遊量:北薩及び薩南海域では前年並、日向灘・豊後水道南部・宿毛湾・土佐湾・紀伊水道外域・熊野灘では下回る。

(2) 漁期:全期間。

(3) 魚体:8cm～20cmの0歳魚主体に、海域によっては17cm以上の1歳魚も漁獲される。

漁況の経過(2013年1月～6月)および見通し(2013年8月～12月)についての説明

1.資源状態:

産卵量(日向灘～潮岬沖、前年9月～8月)から資源状態を判断した。2013年産卵期の産卵量は86.9兆粒(うち7月～8月の予想値は3.2兆粒)であり、2012年度の99.2兆粒より少なかった。1978年以降の産卵量の水準を高位・中位・低位に三分割すると、2013年度は中位にあると考えられた。また、最近5年間の産卵量は横ばい傾向にあると判断した。これらから、系群の資源水準は「中位」、動向は「横ばい」と判断した。なお、2012年の海域全体の漁獲量は2011年とほぼ同じ4万3千トンとなり、引き続き過去最高となった。

2.来遊量、漁期・漁場:

今期は0歳魚(2012年秋～2013年生まれ)主体の漁況になると予測され、前期の漁況等から0歳魚の加入状況を判断した。予測海域全域の漁獲量における1月～6月合計値と8月～12月合計値との間には正の相関関係がある。2013年の1月～6月漁獲量は1万2千トンであったことから、8月～12月漁獲量は2万7千トンと予想された。しかし、0歳魚の割合は前年より少なかったことから、海域全体としては豊漁であった前年並～下回ると予測される。

北薩～薩南海域では、8月以降の漁獲主体は、枕崎沖に太平洋側から来遊する群となる。5月～6月に内之浦漁協の定置網に入網するウルメイワシやカタクチイワシの混ざり銘柄のCPUEと8月～12月の枕崎港のウルメイワシの水揚量に正の相関が見られる。2013年5月～6月の混ざり銘柄のCPUEは高い値を示していることから、豊漁であった前年並みの来遊が見込まれる。

日向灘では、日向灘における稚仔の出現状況およびウルメシラスの漁獲量の状況から、来遊量は豊漁であった前年を下回ると考えられる。

豊後水道南部西側では、漁獲の主体となる0歳魚の来遊量水準は、4月～6月のまき網漁獲量(0歳魚主体)が1986年以来の最高であった前年を下回ったため、前年を下回ると考えられる。

豊後水道南部東側では、0歳魚の漁獲量が前年同期を下回ったことから、来遊量は前年同期を下回ると考えられる。

宿毛湾・土佐湾では、定置網、まき網における入網調査と聞き取りによる0歳魚の加入状況から、前年を下回ると考えられる。

紀伊水道外域西部では、2013年4月～6月の標本漁協における漁獲量は前年を大きく下回っているため、全体として前年を下回ると予測する。

紀伊水道外域東部では、0歳魚の加入は前年および過去10年平均ともに下回っていることから、来遊量は前年および過去10年平均ともに下回ると考えられる。

熊野灘では、例年8月～12月に漁獲主体となるのは0歳魚で、年明けから1歳魚が継続して漁獲される年は秋季にも1歳魚が漁獲され、2歳以上は毎年わずかに混じる傾向にある。2013年の1歳魚(2011年秋～2012年夏生まれ)はほぼ継続して漁獲されており、前年並の来遊が予想される。0歳魚については定置網での漁獲状況が悪く、前年を下回ると予想される。以上を総じて、前年を下回ると見込まれる。

参 画 機 関

| | |
|--|---|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場 | 和歌山県水産試験場 |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課 |
| 岩手県水産技術センター | 高知県水産試験場 |
| 宮城県水産技術総合センター | 愛媛県農林水産研究所 水産研究センター |
| 福島県水産試験場 | 大分県農林水産研究指導センター 水産研究部 |
| 茨城県水産試験場 | 宮崎県水産試験場 |
| 千葉県水産総合研究センター | 鹿児島県水産技術開発センター |
| 東京都島しょ農林水産総合センター | 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター |
| 神奈川県水産技術センター | 香川県水産試験場 |
| 静岡県水産技術研究所 | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター |
| 愛知県水産試験場 漁業生産研究所 | (取りまとめ機関) |
| 三重県水産研究所 | 独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 |